

コラム

昭和20年6月7日。私は…「二人の回想」

自分が生きていたことだけが確か。

その日私は造幣局にいた。

空襲警報解除と同時に屋上へ出てみると、空からは真っ黒な雨が降り、見渡す限りの焼け野原。まだ、所々には火の手が見えた。もうこの世の終わりかと思う気持ちになった(後日少しらしいの火の手にはびくともしない自分が恐ろしかったものだ)。

当時、男子局員はほとんど戦場か軍需工場で、残っているのは管理職の男性とあとは女子ばかりでとても心細いことだった。みんな家が心配なので、とにかく女性は帰ってよいことになった。「危なかったらすぐ引き返してきなさい」上司の温かく心強い言葉を背にして、手ぬぐい一本余分に鞆に詰め早速帰路につく。

当時、父が女学校勤めだったので、まずその動員先

である大阪城内の師団司令部へ安否を確かめに回った。「生徒全員無事引率して学校へ帰られました」ということを聞いてやっと一安心。さあ自分が帰ろうとしたら、野田橋から北へは電車もなく都島は焼け野原で通行不能になっている。

仕方なく手ぬぐいを道路わきの水に浸して、まだ焼けくすぶって異臭を放っている都島を避け、野田橋から四条畷方面へ迂回して、途中道を尋ねながら新森小路の我が家へついたのは夕暮れだった。

勿論、全部歩き通し。歩くのが当たり前みたいな世の中だった。

その夜、家族が揃ったのは何時ごろだったか記憶は定かではない。自分が生きていたことだけが確かなことだった。

容赦ない機銃掃射

1945年終戦(8月15日)の年の6月7日。

B29、250機以上。B24、護衛機を引きつれ小型爆弾・油脂焼夷弾で空爆し、死者2,800人を出した。上町台地にあった私の母校は、6月1日の空襲で被災し休校になっていた。そのため在宅していた私は、その日の空襲とともに指定の避難場所である淀川河川敷に逃げたが、この付近で米軍の容赦ない機銃掃射を受けた。

足にその時の傷跡が60年たった今も残っている。今は薄く痕跡をのこすのみであるが…。

空襲後あちこちに散らばった遺体(身元不詳 引き取り手なし)は数ヶ所で野焼きされ茶毘に付されて遺骨はその土中に埋められた。

これを哀れんで地元の篤志家、東浦栄二郎氏(故人)が遺骨を1ヶ所に集め、庭石に千人塚を刻んで(実際は1,000体よりもずっと多い)おかれたときいている。

現在は由来記と共に黒御影を台座にして千人塚があり、毎年6月7日に慰霊祭が行われている。

今年は日曜日であったが菖蒲園の喧噪をよそに例年より多くの人々が参加され、無惨な死をとげた人々の冥福を心より祈ったことであった。

戦後の食事

まず、私達が直面したのは食糧にまつわるホロ苦い経験である。さつま芋のつる(芋でない)、南瓜のつるも筋をとって食べた。その他…

それでもアメリカのララ物資のおかげで固いコッペパン、団子汁(後にスイトン?という名に変わったが)一番びっくり唾然としたのはアメリカ軍の非常食セットの豪華版である。食後の煙草まで付いていた。日本の乾パンほしいとはえらい違いである。

背景の絵■真弓百合子さんの絵
資料提供:ピース大阪

城北の見どころ

城北(赤川)「今」・「昔」、思いつつ～ブラ歩き

秋の日、地域史づくりのメンバーが城北公園に集まった。この公園も淀川改修前は川の中であった。春は梅(老木)、桜、花菖蒲、秋は菊花展。池では鯉・タナゴチモロコ、釣り人、冬はカモ・ユリカモメが遊ぶ、多くの人達の憩いの場所。



写真■城北公園

(平成21年(2009)6月24日の「まちあるき」にて)

淀川の堤防に登り千人塚に参る。菅原城北大橋はワンド群やヨシ原など周囲とマッチする。斜張橋の橋上からは日の出・夕日の美しい景色・大阪市内を一望できるスポットである。



写真■菅原城北大橋

(平成21年(2009)6月24日の「まちあるき」にて)

明治時代、船が安全に往来できるように淀川がケレップ水制工事で改修された。ケレップ水制工事により、土砂が体積し本流と隔離され出来た池ワンド群を見る。堤防にはワンドに生息する魚類の看板がある。淀川左岸を下り、赤川方面へ。昔の赤川は、淀川の中のアシや水草の生い茂った所であった。淀川の上流から運ばれた泥砂によって出来、一面が湿地となった。土地が低く湿地が多いため、淀川のたびかさなる洪水で田畑、家が流された歴史。

赤川廃寺跡碑(昭和3年半ば、淀川左岸で弥生式土器、須恵器をはじめ遺物が、護岸工事が完成していない川岸に遺物を含む土層が露出していた)をさらに下り、赤川鉄橋へ。戦前からあるトラス型の古いもので人と列車が渡る珍しい鉄橋。堤防下では昔なつかしい(昭和30年頃～)ラーメン屋台が数台並んでいる。

日吉神社を参拝。古い家が多く残っているこのあたりの場所を見ながら城北小学校へ。明治8年(1875)に重誓寺から中村小学校に開校し、その後転々として

明治35年(1902)5月2日現在地へ。城北小学校創立記念日とし5教室から始まった。

赤三商栄会を見て回り、元生江青少年会館で休憩。歩いた処を思い出し話し合ったあと解散。



写真■赤川廃寺跡碑

(平成21年(2009)6月24日の「まちあるき」にて)